川崎港に屋根付き倉庫増設

運送効率向上にも期待

瀬崎林業

瀬崎林業（大阪市、遠野嘉之社長）は川崎港の同社資材置き場に屋根付きの倉庫を増設した。近年取り扱いを増やしているLVL、合板等の置き場を拡充するとともに、同社が扱う多様な資材の集約化を図る。

増設した屋根付き倉庫の敷地面積は450坪。3000立方㍍ほどの資材を格納することができる。

同社は中国産及びベトナム産LVLや合板、建築用LVLなどを取り扱っており、最近ではベトナムの現地メーカーと開発した梱包用ベトナム産合板「6プライ合板」（7月6日付1面既報）が川崎港に入荷した。これらは水濡れによるカビや剥がれ等の防止のため、屋根付きの倉庫での保管が必要となる。同社では昨年にも川崎港の同社資材置き場に屋根付き倉庫を設置しており、今回の増設により、保管力を強化する。

また、首都圏にある川崎港の置き場の在庫能力を高めることで、運送業者の配送効率の向上につなげる狙いもある。同社の取引先には横浜の港湾地区で営業する企業もあるが、在庫場所が限られるケースも多い。こういった事情に対して、川崎港の置き場を拡充して同社が扱う梱包資材や建築資材を集約することで、首都圏の地の利の良さも生かして発注後、即座に多様な資材を届けることができる。また、2024年問題をはじめとした物流面での課題に対しても、自社独自の置き場を構えていることで運送業者にとっても待機時間が短くなることが期待される。

より大型のフォークリフトを使用でき、作業効率も高まる